

第22回日本ボランティア学習学会 第2分科会報告

日時 2019年11月17日(日) 10:15~12:15

報告者 穴戸 敏雄氏(北海道社会福祉協議会北海道ボランティア・市民活動センター運営委員会福祉教育専門委員)

出合 裕太氏(北海道ベースボールアカデミー代表、札幌大学特命講師)

コーディネーター

工藤 直志 氏(旭川医科大学医学部講師)

【報告①】穴戸 敏雄氏

テーマ『高校生同士と地域の人たちの結びつきが形に！～「思い」をつなぎ、「思い」のネットワークを～』について

(1) 内容

現在、岩見沢農業高校ボランティア・ユネスコ部が中心となり、市内にある高校5校で取り組んでいる東日本大震災の復興を支援する「東北の物産販売高校生プロジェクト in 岩見沢」が今年で8年目になり、毎年約50万円強を「東日本大震災子ども支援 ユネスコ協会就学支援奨学金」へ送っている。さらには、北九州豪雨災害、熊本地震等に対する募金活動、胆振東部地震の被災地ボランティアなどにも取り組んでいる。

これらの取り組みの支えとなっているのが地域の人達で、日常的な高校生が行うボランティア活動によって培われた信頼関係であると考え。きっかけとなった9年前のボランティアの体験研修会で、実行委員会は主に地域のボランティア団体の代表によって構成され、そこに参加した地域の人達の高校生への見方の変化、高校生の側にも、地域の人々への見方の変化があり、地域とともに歩むボランティア活動について発表していただいた。

(2) 質疑

- 販売する上で、食の安全性についてどう理解されているか、取り組まれているか。
→放射線の検査基準をクリアされているものを購入し販売している。購入する人でも聞いてくる人はいる。
- 今後、コーディネーター的な存在が必要と話していたが具体的に教えて欲しい。
→ボランティア団体が多く、多様化、混在し、似たような活動も行われているので調整が必要になってきているため必要と感じてきている。

【報告②】 出合 裕太氏

テーマ『ブルキナファソ×富良野×地域活性』について

(1) 内容

2008年～2010年まで青年海外協力隊として西アフリカブルキナファソ初代野球隊員として普及活動を行う。

ブルキナファソに行ったときは、ボール、グローブ、バットなどもなく野球をする場所もない中で始まったそうだ。しかし、野球に興味を持った現地の若者が集まり、キャッチボールを始め、徐々に野球をする環境を整備し、野球を普及させた。その後現在に至るまで野球を通じ人材育成を行い、これまで2名のブルキナファソの選手が日本国内の独立リーグでプレーしている。

2018～2019年には東京五輪アフリカ大会、ブルキナファソ代表監督として就任し、西アフリカ予選を1位通過、アフリカ大陸予選では4位という結果となった。

また、2017年からは、国籍を問わずプロ野球選手を目指す若者を対象にした、人材育成×地域活性の事業として『北海道ベースボールアカデミー』を設立し、2020年度からは北海道初の多国籍育成リーグとしてスタートし、野球をとおして地域活性化を図る取り組みを発表していただいた。

(2) 質疑

○ 窓口の人と関わっていくためにはどうしたらよいか。

→基本的には何かやりたいと思ったら、それに関わる方を探す。富良野を例に出すと、観光は潤っているが、他の産業は人手不足で移住者が欲しい状況。そこで空き家や働くところの相談をすると市の方も協力してくれる。このようにつながりを作っていくと良い。

○ どのように当時子どもたちにさとりを開いていったのか。

→当時の子ども達は劣等感を抱いていたのを感じた。このような中で野球を通して、成功体験を重ね、夢を抱き日本への憧れも持つようになってきたと思う。